



ドリラス

富山県

No.40 2006年7月

中央植物園だより



ハス *Nelumbo nucifera* Gaertn.

ユーラシア大陸からオーストラリアの暖帯に広く分布する多年生の水生植物で、ハス属には2種ある。もう一種のキバナハス (*Nelumbo lutea* (Willd.) Pers.) は北米南部や南米の一部に隔離分布する。肥大した根茎がれんこん(蓮根)で、食用にされる。仏典の花としても馴染み深い植物で、ハスとスイレンをあわせて、仏教では「蓮華」と呼ばれる。種子が長命なことでも知られ、昭和26年に故大賀一郎博士が縄文遺跡の発掘現場から発見した2000年以上前の種子が発芽し、現在でも「大賀ハス」として各地で栽培されている。

撮影/大嶋 武さん (平成17年度私の植物写真展応募作品)

BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

7月～9月のサンライトホール展示

特別展 「食虫植物展」

虫を食べてしまう不思議な植物の世界へ招待します

7月21日(金)～8月2日(水)

食虫植物とは昆虫などの動物をおびき寄せ、捕まえて、養分を吸収する植物で、世界に600種ほどあるといわれています。ウツボカズラやサラセニア、ハエトリグサなど代表的な食虫植物の多くは外国産の植物ですが、日本にもモウセンゴケやミミカキグサなどの食虫植物が自生しています。

食虫植物は種類によって様々な方法で虫を捕らえます。その様式には次の五つがあります。

- ①閉じ込み式……ハエトリグサ属やムジナモ属
- ②吸い込み式……ミミカキグサ類やタヌキモ類
- ③粘り着け式……モウセンゴケ属やムシトリスミレ属など
- ④落とし穴式……ネペンテス(ウツボカズラ)属やサラセニア属など
- ⑤誘い込み式……ゲンリセア属

今回の「食虫植物展」では1リットルもの水が入るほどおおきな袋をつけたネペンテス・トランカータをはじめ、国内外の様々な食虫植物を紹介します。



ウツボカズラの花

ウツボカズラ(*Nepenthes*): 東南アジアの熱帯を中心に約90種が知られている。大きなものでは子供の顔ほどの大きさの袋をつける種もあり、ネズミなどの小動物が入ることもあるという。



ハエトリグサ: 一属一種の植物で、アメリカのノースカロライナ州からサウスカロライナ州に自生する。閉じ込み式の代表的な植物で、葉の内側にある感覚毛に2回触れることで葉が急速に閉じ、虫を閉じ込めます。



オーストラリア固有のアデレーモウセンゴケ。右はアデレーモウセンゴケの葉が蚊を捕らえた様子。

モウセンゴケ: オーストラリア、南米、南アフリカを中心に約150種あり、日本にもモウセンゴケなどが自生する。粘り着け式の代表的な食虫植物です。



サラセニアの花

サラセニア(*Sarracenia*): 北アメリカの東部からフロリダ半島の海岸平野や五大湖周辺などの湿地に8種が自生する。仮面ライダーに登場した怪人サラセニアンはこの植物をモデルにしている。

特別展 「ニライカナイの染織と食」 —沖繩の植物の恵み—

8月4日(金)～9月6日(水)

ニライカナイはこの青い海の向こうにある

国内最大規模の芭蕉布の展示

「ニライカナイ」とは沖繩の言葉で「海の彼方あるいは海の底にある浄土楽土」のことです。沖繩の人々はそこからユー（世：豊穡、幸福、富貴の意味）がもたらされると信じています。沖繩は、日本や中国、東南アジアなど周辺諸国との長い歴史的交流、ならびに沖繩の気候・風土から独自の文化が生み出されてきました。

今回の特別展「ニライカナイの染織と食」における芭蕉布の展示は国内最大規模のもので、その他にも沖繩県の代表的な染織として、びん型や宮古上布、久米島紬、八重山上布、花織を展示します。この企画展は沖繩県や沖繩県の各織物事業協同組合などの全面的協力により実現しました。



沖繩独特の染織（知花花織）

亜熱帯気候の沖繩では熱帯植物が育つこともあり、独特の食文化も発達しました。最近ではゴーヤのように、全国的にすっかり定着したものもあります。昨年、中央植物園で路地栽培に成功して話題になった完熟前のパパイヤは沖繩では野菜として普通に販売されています。



沖繩では普通に野菜として売られている未熟のパパイヤ。



左：中央植物園熱帯雨林植物室に植えられているフクギ。
右上：リュウキュウアイ。
右下：上からリュウキュウアイ、フクギ、フクギ。

関連行事 [今年度は琉球列島に因んだ様々なイベントを企画しています]

- 第14回TOYAMA植物フォーラム「琉球列島の植物文化」 8月6日(日) 13:00～ 研修室
- 琉球の食材植物とその料理 8月20日(日) 13:00～ 実習室 定員20名(申込が必要です)
- 第3回ドリアスコンサート「琉球音楽のしらべ」 8月中に行う予定です

活動報告 (4～6月)

ソメイヨシノと夜桜観賞

4月12日(水)～4月15日(土)



天候不順のため、今年は期間を4日間に延長して行いました。天候には恵まれませんでしたが、2万人を超える入園者で賑わいました。

日本列島の桜旅

4月23日(日)



大原主任が日ごろの研究成果をもとに日本各地のサクラを紹介し、植物園に植えられているサクラの解説を行いました。

春のガーデニング相談会

4月30日(日)



植物の栽培方法から病虫害の防除など園芸に関する様々な話題で盛り上がりました。次回「夏のガーデニング相談会」は7月16日(日)です。

第27回 野生ラン展

5月3日(水)～5月5日(金)



富山県蘭協会との共催で、ランの野生種と園芸品種約250点を展示しました。会期中はランの即売もあり、4000人を超える入園者でにぎわいました。

バラとバラ図譜展

5月19日(金)～5月31日(水)



富山バラ会と日本ハンギングバスケット協会北陸支部の協力で、美しい花を咲かせるバラの切花やディスプレイを展示し、併せて中央植物園が所蔵する二口善雄画伯の描いたバラの植物画約20点も展示しました。

さつき展

6月2日(金)～6月4日(日)



地元愛好団体の「寿さつき会」との共催で、美しい花を咲かせたサツキの盆栽約40点を展示しました。長年作り込んだ見事なさつきに入園者は驚いていました。

研究紹介◎室堂平「丸乗谷」の植生

主任 吉田めぐみ

立山の室堂平は立山の西側、標高2350m付近に広がる溶岩台地で、高山帯の植生に覆われています。植生は概観すると、尾根部にはハイマツの優占するコケモモ-ハイマツ群集が、また平坦部や緩やかな斜面には多雪地の雪解けの遅い湿った立地にみられるイワイチョウ-ショウジョウスゲ群集が広面積を占めています。しかしながら、小規模な起伏が多い室堂平にはその地形の細かい条件によって、様々な植物群落が多様モザイク状に出現します。ここではその一例として「丸乗谷」の植生を紹介します。

「丸乗谷」はみくりが池より西側に伸びる2つの尾根に挟まれた鞍部で、東西約40m、南北約20mに広がり、7月下旬まで残雪が残ります。斜面の上部にはコケモモ-ハイマツ群集、中腹部にチングルマ、コツガザクラ、アオノツガザクラが混生するコツガザクラ群集、その下にハクサンボウフウ、ヨツバシオガマ、ウラジロタデなど高茎の草本群落であるタテヤマアザミ-ホソバトリカブト群集、そして斜面の一番下にはイワイチョウ-ショウジョウスゲ群集が見られます。またイワイチョウの群

落に隣接して最も雪の残る場所にエゾホソイが優占するエゾホソイ群集が見られました。このように丸乗谷は狭い地域でありながら、微地形により雪解けの時期が異なることなどの要因によって、様々な群集が成立すると考えられます。



室道平丸乗谷の景観

植物園 トピックス



■フローラルステージでコーラスと結婚式が行われました

昨年10月15日に園内の「花のpromナード」に完成したステージ付き花壇(愛称:フローラルステージ)で、

ゴールデンウィーク中に、コーラスと結婚式が行われました。

5月6日にはフローラルステージ初の結婚式が華やかに行われ、新郎新婦は約80名の出席者や大勢の一般入園者に祝福されました。内村中央植物園長も乾杯の挨拶で、お二人を祝福しました。

なお、フローラルステージの利用については、植物園(電話076-466-4187)までお問い合わせください。

■フローラルステージの花を富山県中央農業高校の生徒さんが植え替えてくれました

5月30日に富山県中央農業高校園

芸デザイン科環境緑化コースの3年生の生徒さん11名が、校外実習としてフローラルステージの植え替えをしてくれました。

■大原隆明主任が坂寄賞受賞

「日本植物園協会坂寄奨励賞」は研究面や事業面で成果をあげた将来有望な若手を対象に平成16年に設けられました。平成18年度は大原隆明主任が「富山県植物相の調査研究と友の会植物誌部会の指導」を対象に受賞しました。昨年の兼本主任に続き当園としては二人目の受賞になりました。



植物園の新しい仲間

チリマツ

(*Araucaria araucana*)

チリ南部のアンデス山中に自生するナンヨウスギ科の常緑高木で、高さは50mにもなる。円錐形のたいへん美しい樹形になり、この仲間は世界三大公園木といわれる。葉の先は鋭くとがり、素手で持つと危険である。そのため、「猿が途方に暮れる」という意味の「Monkey Puzzle」という英名があるが、チリには猿がいないので、この英名はチリ以外の場所で付けられたと考えられている。たいへん寒さにも強く、すでに造園樹として世界中で植栽されているが、自生地では絶滅が危惧されている。

5月18日に中央植物園へやってきたチリマツは富山県内に植えられていたもので、このようなきれいな樹形をしたものは珍しい。



催し物のご案内

■サンライトホール展示

私の植物写真展

6月23日(金)～7月19日(水)

食虫植物展

7月21日(金)～8月2日(水)

特別展「ニライカナイの染織と食」

—琉球列島の植物の恵み—

8月4日(金)～9月6日(水)

小中学生夏休み作品展

9月8日(金)～10月18日(水)

■観察会・講座・講習会

夏のガーデニング相談会

◎要申込

7月16日(日) 13:00～15:00

場所/研修室

定員/30名 参加費/無料

デジカメ親子教室「花を撮ろう」

◆要申込

7月22日(土) 10:00～15:00

場所/園内・富山県ITセンター

定員/16組 参加費/無料

→この行事の申込方法は、富山県ITセンター情報工房施設(TEL 076-444-7887)までお問合せください。

夏休み植物教室(小学生対象)

◎要申込

7月30日(日)・8月1日(月)・

8月2日(火) 10:00～15:00

場所/ドリアスホール

定員/1日20名

植物染め講習会

8月5日(土) 10:00～16:00

場所/実習室

定員/24名程度

参加費/1000円

第14回TOYAMA植物フォーラム

「琉球列島の植物文化」

8月6日(日) 13:00～17:00

場所/研修室

講師/未定

定員/50名

参加費/無料

琉球の食材植物とその料理

◆要申込

8月20日(日) 13:00～15:00

場所/実習室

講師/未定

定員/24名

参加費/未定

第3回ドリアスコンサート

8月中に行う予定です

場所/園内

内容/未定

参加費/入園料が必要

第27回 植物画講習会

◆要申込

9月30日(土)・10月1日(日)

10:00～16:00

場所/研修室

講師/豊田路子・岡田宗男(植物

画家)

定員/50名

参加費/500円

■月例行事

日曜植物案内

7月2日(日)・8月6日(日)・

9月3日(日) 11:00～12:00

集合場所/サンライトホール

参加費/入園料が必要

植物園オリエンテーリング

7月16日(日)・8月20日(日)・

9月17日(日) 10:30～11:30(受付)

集合場所/サンライトホール

参加費/入園料が必要

■夜間開園

「夜の温室植物」

8月13日(日)・14日(月)

19:00～21:30(入園は21:00まで)

場所/サンライトホール、

展示温室

入園料/300円(高校生以下無料)

◎要申込 事前の申込が必要です。前日までに「電話」でお申込みください。

◆要申込 事前の申込が必要です。申込は1ヶ月前から「往復はがき」で受け付けています。

友の会会員募集中!

■特典 会員証を示しサインするだけで入園できます。/会報や植物園だよりが送られてきます。/多彩な友の会の行事に参加できます。/印刷物を割引で購入できます。

■会費 年額3,000円。5月以降、新規に加入される方は初年度会費の割引を受けられます。

■入会方法 植物園の入園窓口で随時受け付けています。

富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)
(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)

休園日 毎週木曜日、年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 大人(一般および大学生) 600円
団体料金(20名以上) 480円
高校生以下 無料

交通案内 JR富山駅から、富山地鉄バス「ファボーレ經由萩の島循環」に乗車し「中央植物園口」停留所下車、徒歩約8分/富山市中心部より車で約15分/北陸自動車道富山インターより車で約15分/JR速星駅より車で約8分